

監修の序

北 啓一朗先生は15年以上前からの親友です。ホッコリした語り口の全身に優しさがあふれている医師で、物語と対話による医療(NBM: narrative based medicine)の第一人者でもあります。

数年前、北先生から各疾患に特徴的ないくつかの症候を「足し算」して鑑別診断を絞り込むというユニークなアイデアを聞きました。なるほどと思いました。医学を学び始めたばかりの医学生や、臨床経験がまだ少ない初期研修医にとっては、特徴的ないくつかの症候の組合せが、ある疾患の検査前確率を大きく高めるという診断推論は大変わかりやすいと思います。

この病気かなという絞り込みができれば、聞きたい問診や絶対に確かめたい特異度の高い身体診察がわかります。この本には日常の外来診療で遭遇する、ほとんどの疾患が網羅されています。実臨床では「目くらまし」となる症候に惑わされて診断が違う方向に向かうことがあります。だからこそ、よくある病気の典型的な症候をしっかりと記憶する必要があります。大切なキーワードを患者さんの物語のなかに見つけるのです。

白衣のポケットに本書を入れ、出会った疾患のページを探し、実際の症例から学んだことを補足していってください。数年後には自分独自の「症候足し算」ができあがっているでしょう。

2017年10月

諫訪中央病院
山中克郎